

なるとの環境情報をお知らせします！

なると環境新聞

創刊号

環境についてのアンケート結果がでました！

50年後、鳴門の環境はどうなってる？

どのような鳴門の環境を残していきたいですか？
また、どのような鳴門の環境を取り戻したいですか？

現在、鳴門市では、環境問題の解決に向けて、まずは私たち人間にとって、そして野生の生きものにとって暮らしやすい環境を目指し、50年先という未来を目指した「鳴門市環境基本計画」づくりを市民参加で進めています。

今年6月に、環境に関する市民の皆さんの声を把握するためのアンケートを一般市民2000人、市内小中高生約700人および鳴門教育大学生を対象に実施しました。今回、その一部をお知らせします。なお、アンケート結果は、貴重な意見として今後の計画づくりに活かしていきます。

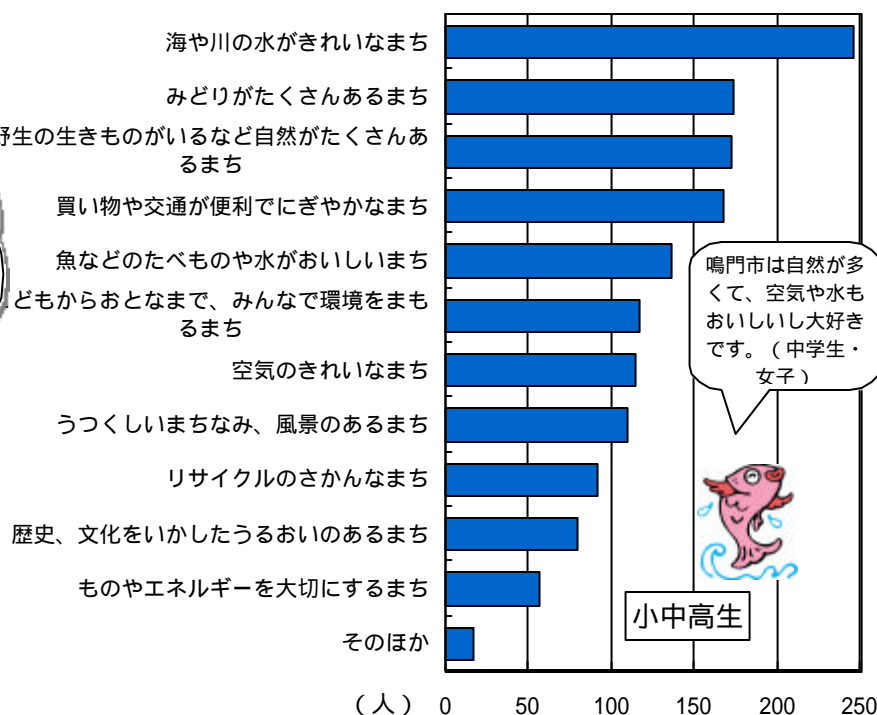
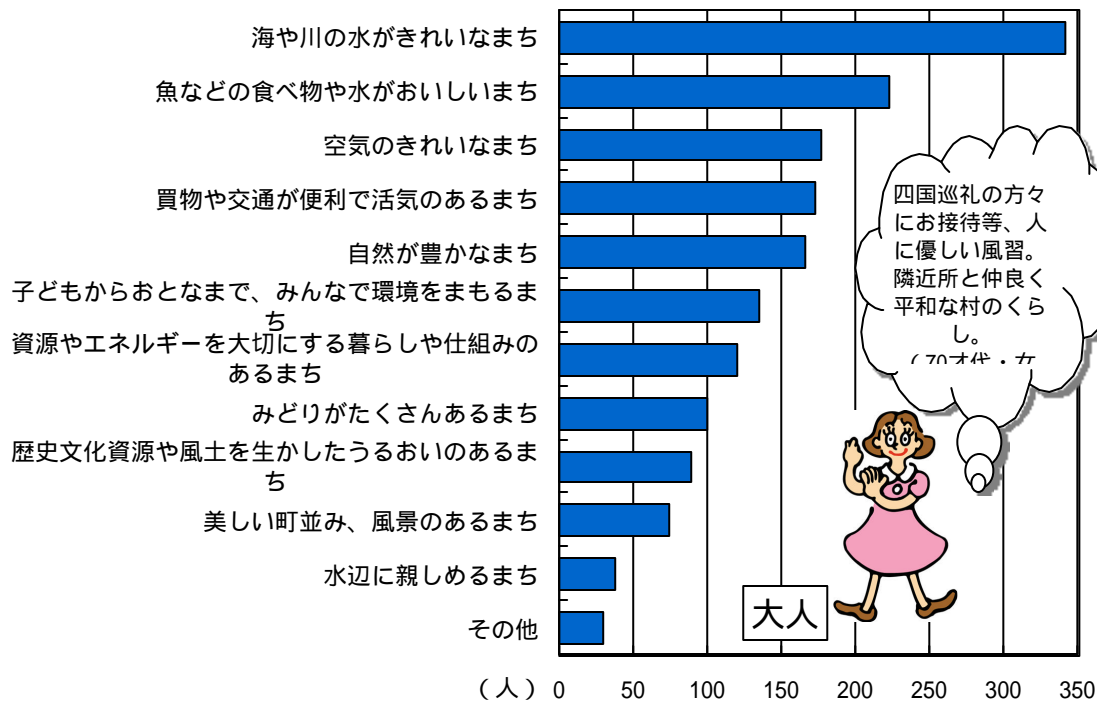


(四方見展望台からウチノ海をのぞむ)

『海や川がきれいなまちがいいな！』

「50年先の鳴門市がどんな環境になったらいいと思いますか？」という質問に対して、「海や川の水がきれいなまち」が大人にも子どもにも一番に選ばれました。

2番目以降は、大人では“魚などの食べ物や水がおいしいまち”、“空気のきれいなまち”でしたが、子どもは“みどりがたくさんあるまち”、“野生の生きものがあるなど自然がたくさんあるまち”となっています。



四国巡礼の方々にお接待等、人に優しい風習。隣近所と仲良く平和な村の暮らし。(70年代・カ)

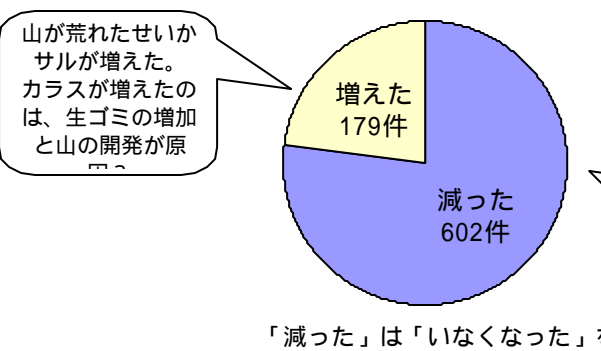
鳴門市は自然が多くて、空気や水もおいしいし大好きです。(中学生・女子)

身近な自然環境の変化

「どんな生きものが「減った」、または「増えた」と感じますか」という質問では、増えた生きものとして、カラス類、スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)、セイタカアワダチソウなどが多くあげられています。一方、減った(又はいなくなった)生きもの上位は、メダカ、ホタル類、カエル類などでした。増えた生き物は都市に適應した生き物や外来種が多く、減った生き物は水辺にすむものが多くあげられました。



スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)
タニシのような形をしていますが、長い触覚が特徴です。鮮やかなピンク色の卵を田んぼや水路のまわりに産み付けるので、とても目立ちます。もともとは食用として日本に持ち込まれたもので、原産地は南米です。イネなどを食害します。



用水路がなくなって、水も汚れたせいか、メダカ、ホタル、ドジョウなどがいなくなっ

増えた生きもの・減った(いなくなった)生きもの			
= 増えた生きもの上位10種 =	= 減った生きもの上位10種 =		
カラス類	36	メダカ	60
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	26	ホタル類	58
セイタカアワダチソウ	20	カエル類(外来でない)	42
オオクチバス(ブラックバス)	13	トンボ類	37
ニホンザル	8	ドジョウ	36
アカミミガメ	6	フナ類	36
ホタル類	5	アメリカザリガニ	35
アメリカザリガニ	4	カニ類	27
イヌ(野良犬)	4	カブトムシ・クワガタムシ	26
カ(蚊)	4	淡水産エビ類(アメリカザリガニ除く)	20